Center for the Studies of Higher Education, Nagoya University

名古屋大学高等教育研究センター
第30回客員教授セミナー

時代が求める学習様式と大学教育改革が目指す学習様式は何が異なるのか

溝上慎一氏

京都大学
高等教育研究開発推進センター助教授

講演要旨

いわゆる近代社会における啓蒙としての教育的ダイナミックスは、わが国ではほぼ終焉を迎えたといえる。急速に進展する社会を引っ張った大人の権威は失墜し、もはや大人から子ども、若者への上から下への知識伝達図式は、あらゆる学校段階で破綻している。そんな中学生に求められる新たな学習形態は、自らの頭で世界を見てものを考える知識構成型の学習である。

しかしこの学習力は、知識の基礎、基本をしっかり身につける基礎的学習を土台としており、従来の学習形態からのドラスティックな転換というよりも、むしろ発展形態といえるものである。アカウンタビリティや経営的問題から、昨今の大学教育ではいわゆる「学校化」が進んでおり、自ら学ぶ学生を育てる営みは放棄してしまっているように見える。

当日は、学生に求められる新しい時代の学習課題と、昨今進行する大学教育の現状とのすりあわせを検討したい。

※セミナー出席希望される方は、セミナー当日までに seminar@cshe.nagoya-u.ac.jp 宛へご連絡ください。

日時：2005年12月20日（火）
午後2時～
場所：名古屋大学　東山キャンパス
文系総合館7階
オープンホール

お問い合わせ：
近田　政博（内線5692）
052-789-5692
chikada@cshe.nagoya-u.ac.jp